

【特集】

OECD 化学物質共同評価プログラム：第6回化学物質共同評価会議概要

OECD Cooperative Chemicals Assessment Programme:
Summary of 6th Cooperative Chemicals Assessment Meeting

松本真理子¹⁾、清水将史²⁾、宮地繁樹³⁾、菅谷芳雄⁴⁾、広瀬明彦¹⁾

- 1) 国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター安全性予測評価部
- 2) (独) 製品評価技術基盤機構化学物質管理センター
- 3) (一財) 化学物質評価研究機構安全性評価技術研究所
- 4) (独) 国立環境研究所環境リスク研究センター

Mariko MATSUMOTO¹⁾, Masashi SHIMIZU²⁾, Shigeki MIYACHI³⁾,
Yoshio SUGAYA⁴⁾, Akihiko HIROSE¹⁾

- 1) Division of Risk Assessment, Biological Safety Research Center,
National Institute of Health Sciences,
- 2) Chemical Management Center, National Institute of Technology and Evaluation,
- 3) Chemicals Assessment and Research Center,
Chemicals Evaluation and Research Institute,
- 4) Research Center for Environmental Risk, National Institute for Environmental Studies

要旨：第6回 OECD 化学物質共同評価会議が、2014年9月30日-10月3日にフランスのパリで開催された。この会議では計136物質（初期評価：132物質；選択的初期評価：4物質）について審議され、titanium dioxide (CAS: 13463-67-6) を除く全ての物質に合意が得られた。日本は、政府作成の物質カテゴリー：Methyl- and Ethylcyclohexane (CAS:108-87-2、1678-91-7)および経済産業諮問委員会原案作成の trimethylsilanol (CAS: 1066-40-6) の初期評価文書、また 1,2-dichloro-4-(chloromethyl)benzene (CAS: 102-47-6)、1-naphthol-4-sulfonic acid sodium salt (CAS: 6099-57-6)、Disperse Red 206 (CAS: 26630-87-5)の計3物質の選択的初期評価文書を提出し合意された。本稿では、第6回化学物質共同評価会議の討議の概要を報告する。

キーワード：経済協力開発機構、化学物質共同評価会議、有害性評価

Abstract : The 6th Cooperative Chemicals Assessment Meeting was held in Paris, France on 30th September to 3rd October 2014. The initial assessment documents of 136 substances (SIDS Initial Assessment: 132 substances; Initial Targeted Assessment: 4 substances) were discussed, and the conclusions of the assessments for all substances except titanium dioxide (CAS: 13463-67-6) were approved at the meeting. Japan submitted the SIDS initial assessment documents for two substances, Methyl and Ethylcyclohexane (CAS: 108-87-2 and 1678-91-7), as a category assessment, and one substance, trimethylsilanol (CAS: 1066-40-6), as a single chemical assessment with BIAC (Business and Industry Advisory Committee). Japan also submitted the initial targeted assessment documents for three substances, 1,2-dichloro-4-(chloromethyl)benzene (CAS: 102-47-6), 1-naphthol-4-sulfonic acid sodium salt (CAS: 6099-57-6), and Disperse Red 206 (CAS: 26630-87-5). This paper reports the summary of the 6th Cooperative Chemicals Assessment Meeting.

Keywords : OECD, Cooperative Chemicals Assessment Meeting, Hazard Assessment

はじめに

経済協力開発機構（OECD: Organisation for Economic Co-operation and Development）では、市場にある全ての化学物質の環境影響および人健康影響に係る初期有害性情報を収集・評価する「化学物質共同評価プログラム（CoCAP: Cooperative Chemicals Assessment Programme）」を2011年より行っており、化学物質共同評価会議（CoCAM: Cooperative Chemicals Assessment Meeting）が年2回開催されてきた。本プログラムでは、化学物質の有害性の初期評価に必要なスクリーニング情報データセット（SIDS: Screening Information Data Set）を全て満たしているSIDS評価と、有害性評価に最も関連の強い一つもしくは複数のエンドポイントに焦点を絞って評価する選択的評価（TA: Targeted Assessment）のどちらかの区分により、化学物質の有害性を評価してきた。日本は、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）の基に収集した情報を、SIDS エンドポイントを満たしている場合はSIDS 初期評価として、SIDS エンドポイントを満たしていない場合は、化審法の評価を基に人健康影響、物理化学的性状および曝露情報の一部に限定して選択的初期評価として提出している。

OECD 加盟国または企業が作成した初期評価文書の原案は、スポンサー（スポンサー国、またはスポンサー国が定まらない場合にはBIAC(Business and Industry Advisory Committee、経済産業諮問委員会)を通じて提出され審議を受けている。審議のためには、初期評価プロファイル（SIAP: SIDS Initial Assessment Profile）、初期評価レポート（SIAR: SIDS Initial Assessment Report）および網羅的資料集（Dossier）の3文書の一式または、選択的初期評価プロファイル（ITAP: Initial Targeted Assessment Profile）、選択的初期評価レポート（ITAR: Initial Targeted Assessment Report）および Dossier の3文書の一式の提出が必要である。Dossier はIUCLID（International Uniform Chemical Information Database）というデータベースのソフトウェアを用いて作成されているが、出力方法をエクスポートファイルにすることによって、生データのやり取りが可能となる。したがって、最終的にはエクスポートファイルの提出も必要となっている。

第6回 CoCAM は2014年9月30日-10月3日にフランスのパリで開催され、OECD 加盟国、非加盟国の中国およびロシア、産業界からの出席者で行われた。日本からは政府専門家の3名とオブザーバー2名が出席した。本プログラムは、化学物質の初期評価を行うプログラムから評価手法の開発などに視点を当てたプログラムに変更することが決定しており、今回の第6回 CoCAM は、初期評価を行う最後の会議となった。本稿では第6回 CoCAM での討議内容として、2013年10月に実施された第5回 CoCAM 以降の進捗状況、初期評価文書の審議結果および本プログラムの全般的な懸案事項に関する討議内容について報告する。本稿は第6回 CoCAM の会議報告書（OECD 2014）を参照して作成した。

1. 第5回 CoCAM 以降の進捗状況

(1) 初期評価文書の公開状況

CoCAM で合意された初期評価文書(SIAP/ITAP)は、ハザード評価タスクフォース(以下、タスクフォース)および「OECD 化学品委員会および化学品・農薬・バイオテクノロジー作業部会合同会合」に提出して承認を得る。承認が得られたSIAP/ITAPについては、OECD が既存化学物質データベース(OECD 2015)を通じて公開している。一方、文書作成を行った国または企業はCoCAM での審議をもとにその他の最終版の初期評価文書（SIAR/ITAR、Dossier およびエクスポートファイル）を作成し、CoCAM 後3ヶ月を目途にOECD 事務局に提出する。最終版の初期評価文書の提出が6ヶ月以上滞っている場合、スポンサーは状況説明と提出予定期日を示す必要がある。

SIAP/ITAP の公開後、最終文書が整い次第 SIAR/ITAR、Dossier およびエクスポートファイルについても、OECD の既存化学物質データベースより入手が可能となる。第5回 CoCAM で合意された初期評価文書は、全て公開の許可が得られた。第4回 CoCAM で合意された「物

質カテゴリー: Monomeric Chlorosilanes」についても、スポンサー国 (US/ICCA (International Council of Chemical Associations、国際化学工業協会協議会)) が一部内容の訂正を行っていたが、第 5 回 CoCAM の文書と共に公開の許可が得られた。第 6 回 CoCAM 開催時に OECD のデータベースで公開されている物質数は、本プログラムの前身となる「OECD 高生産量化学物質 (HPV: High Production Volume Chemicals) 点検プログラム」での評価物質を含め、計 984 であった。なお、HPV 点検プログラムの歴史および CoCAP へと移行した経緯については、松本他が報告しているのを参照されたい (松本他, 2012)。

2. 第 6 回 CoCAM での審議状況

(1) 初期評価文書・選択的初期評価文書の審議結果

初期評価文書および選択的初期評価文書の審議は、スポンサーが評価文書の原案を OECD の電子掲示板であるクリアスペースに掲載し、クリアスペース上で行うコメントの提出、コメントへの返答、コメントに応じた SIAP/ITAP の修正という事前討議および CoCAM での対面討議で行われる。第 6 回 CoCAM での初期評価文書の審議は、クリアスペースでの事前討議を基に修正した SIAP/ITAP を用いて行われた。日本は、政府作成の物質カテゴリー: Methyl- and Ethylcyclohexane (CAS:108-87-2, 1678-91-7) および BIAC 作成の trimethylsilanol (CAS: 1066-40-6) の初期評価文書、また 1,2-dichloro-4-(chloromethyl)benzene (CAS: 102-47-6)、1-naphthol-4-sulfonic acid sodium salt (CAS: 6099-57-6)、Disperse Red 206 (CAS: 26630-87-5) の計 3 物質の選択的初期評価文書を提出し合意された。この会議では計 136 物質 (初期評価: 132 物質; 選択的初期評価: 4 物質) について審議され、titanium dioxide (CAS: 13463-67-6) を除く全ての物質に合意が得られた。付表には、今回の会議で審議された物質を示した。また、本会議で討議された物質は次の通りであった。下記以外の物質は事前討議を反映した SIAP/ITAP がそのまま、もしくは文字句の修正のみで合意された。

1) 物質カテゴリー: t-Butyl and t-Amyl Derived Alkyl Peroxyesters (5CAS)

オランダ/ICCA が担当した本物質カテゴリーについては、カテゴリーを構成する 5 物質中 2 物質は反応性が高く、各種試験に分解を防ぐための溶媒が用いられている点について審議された。溶媒の有無が毒性に与える影響は明確には分からないものの、本カテゴリー内の試験結果では、溶媒の有無による差は見られていない。しかし、溶媒不使用の試験情報のみでは、カテゴリー評価として情報量が不足するため、溶媒を用いた試験も採用することとした。溶媒の使用は毒性評価に問題はないと考えられたが、SIAP に溶媒使用の有無を明記することになった。また、スポンサー国は SIAR についても同様の修正を行うことを約束し、初期評価文書の合意に至った。

2) 物質カテゴリー: Soluble cobalt salts (8CAS)

オランダ/ICCA が担当した本物質カテゴリーについては、カテゴリーを構成する 8 物質の比較対象として掲載していた物質の情報を、添付文書として SIAP から独立させることで合意された。また、現在、生殖発生毒性試験を行っていることを SIAP に記載し、情報が得られ次第 SIAP を改定することで合意が得られた。

3) 物質カテゴリー: Aliphatic acids (78CAS)

イタリア/ICCA が担当した本物質カテゴリーは 78 物質からなり、本プログラム内で審議された物質カテゴリーとしては最も構成物質数の多い初期評価文書であった。環境影響の中で特に生分解性の潜在力について審議された後に合意に至った。

4) 物質カテゴリー: Methyl and ethylcyclohexane (2CAS)

日本が担当した本物質カテゴリーについては、腎臓に対する影響が雄ラット特有の $\alpha 2u$ グロブリン腎症によるものか否かをより明確に示す必要があるとの意見があり、免疫組織染色の結

果の詳細を追記した。一方、環境影響における生態濃縮試験の結果では、メチルシクロヘキサンとエチルシクロヘキサンの間で 10 倍の差があることに対して討議されたが、理由は不明なものカテゴリーとして問題があることではないと結論され合意に至った。

5) Hexamethyldisiloxane (CAS: 107-46-0)

第 1 回 CoCAM で US/ICCA が提出し合意された本物質の初期評価文書については、BIAC が吸入試験による発生毒性の試験と生態濃縮についての情報を再評価し、今回の会議で再審議された。ヒト健康影響については、前回合意された発生毒性の NOAEC を変更したが、今回の対面会議の結果、第 1 回 CoCAM で合意された NOAEC に戻すことで合意が得られた。BIAC は、2 世代試験の結果で示される児の体重減少は軽微であり、生物学的毒性を反映したものではないと評価したが、用量依存性のある毒性として採用すべきであると結論された。また、環境影響については、フガシティーモデルの値を基に考えた食物連鎖における生態濃縮能に対する記述を削除することで合意が得られた。

6) Titanium Dioxide (CAS: 13463-67-6)

韓国が担当した本物質に対する初期評価文書は、第 3 回 CoCAM に提出され、第 4 回 CoCAM で合意に至った。その後のタスクフォースの承認を受ける段階になって、BIAC が人健康影響に対する知見が不足していることに懸念を呈した。第 4 回 CoCAM の行われた時期に BIAC 及び欧州化学物質生態毒性および毒性センター (ECETOC: European Central for Ecotoxicology and Toxicology of Chemicals) ではスタッフの交代があり、第 3 回 CoCAM の後に加えられた初期評価文書の変更点などを把握することが出来ていなかった。BIAC は遺伝毒性試験、生殖発生毒性試験、発がん性に関する情報を追加する必要があるとし、初期評価文書の改訂案を提示した。今回の会議では吸入による発がん性影響の追加分については合意が得られたが、遺伝毒性、生殖発生毒性の情報については、一部の Dossier が提出されていないことを理由に合意に至らなかった。OECD 事務局は、韓国が検証出来るように、遺伝毒性試験と生殖発生毒性試験の報告書を韓国に渡すよう BIAC に提案した。カナダ、ドイツ、オランダは改訂作業を続けることを支持した。しかし、会議後に韓国は「現行の CoCAP が終わりを迎えるこの局面に改訂作業のために人員を割くことが難しい」と OECD 事務局に報告した。更に、韓国は第 4 回 CoCAM で合意された文書を最終版として公開することを提案した。本件に関しては、BIAC がスポンサーとなって改訂作業を行うことに合意が得られれば、CoCAM 後に書面審議という形で引き続き作業が行えるだろうと結論された。また、韓国は引き続きスポンサーとなるためには、予算を確保するために OECD 事務局から正式に韓国政府に対する依頼状が必要であることを伝えた。

(2) 化学物質共同評価プログラムにおける全般的な懸案事項の討議結果

1) 化学物質ハザード分類の試験的な作業

CoCAM では、GHS (The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals: 化学品の分類および表示に関する世界調和システム) 分類の作成および調和に対する試験的な作業を行っており、過去 3 回の CoCAM で審議をしてきた (松本他、2014a,b,c)。今回の会議では、2-vinylpyridine (CAS: 100-69-6) の GHS 分類について、分類作業を行った有志国 (デンマーク、フランス、日本、オランダ、ロシア、スイス) の統一見解が得られるように討議を行った。会議に先立って、統一見解が得られていなかった 9 つのエンドポイント (急性毒性: 経皮、急性毒性: 経口、刺激性: 眼、刺激性: 皮膚、皮膚感作性、遺伝毒性、生殖発生毒性、特定標的臓器毒性: 単回、特定標的臓器毒性: 反復投与) について調整を行ったが、2 つのエンドポイント (特定標的臓器毒性: 単回、特定標的臓器毒性: 反復投与) については、合意が得られず今回の会議で討議された。二つのエンドポイントの内、特定標的臓器毒性: 単回については、会議出席者の間で合意が得られたが、特定標的臓器毒性: 反復投与については、

関係者が不在のため討議が出来ず会議後に書面又は電話会議で討議することになった。OECD 事務局は、統一見解が得られた後に、内容を取りまとめて OECD 試験と評価シリーズとして公開する。OECD 事務局は、国連小委員会が行っている GHS 調和作業について紹介し、国連が行っている作業を OECD 加盟国の専門家が支援することを期待するとまとめた。

2) 有機金属や有機物を含む金属の環境リスク評価

有機金属や有機物を含む金属の環境リスクの評価手法として、カナダが環境内運命を基に評価するためのガイダンスの草案を作成し、2014 年のタスクフォースで紹介された。今回はタスクフォースおよび CoCAM 関係者に係る BIAC および OECD 事務局からのコメントに応じて修正した草案をカナダが紹介した。BIAC は更に 2 点ほど文字句の修正について意見を述べ、カナダが修正案に合意した。他の CoCAM 出席者からは意見はなかったため、合意された文書をタスクフォースに提出することになった。本ガイダンス文書は、「OECD 化学品委員会および化学品・農薬・バイオテクノロジー作業部会合同会合」より公開許可を得た後に、OECD 試験と評価シリーズとして出版される。

3) OECD CoCAM の今後の展開

本プログラムは、REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals) 規則が施行されて以来、審議される物質数が減少し、今後も欧州諸国の積極的な初期評価文書の提出が期待できないことから、今回の会議が最後の CoCAM となることが決まっていた。しかし、本プログラムはテーマを変えて続けられる予定であり、OECD 事務局は、CoCAP の新テーマとして以下を紹介した。

①IATA の開発と応用

試験および評価に関する統合的アプローチ(IATA: Integrated Approaches to Testing and Assessment)は、単独の化学物質又はカテゴリー物質の様々な情報を統合的に扱い、不要な *in vivo* 試験を行うことなく、必要最小限の新たな情報を取得し評価を行うことを目的とする。

②カテゴリー評価

OECD 加盟国にとって興味のある物質についてカテゴリー評価を行い、その評価手法についてガイダンスを作成することを目的とする。

③複合曝露評価

化学物質単独の有害性に対する評価手法ではなく、実社会に則した複合的な化学物質の曝露を想定としたリスク評価手法の検討を目的とする。

今回の会議では、3つのテーマは互いに関連しあっているということが確認された。いずれのテーマについてもスポンサーが単独又は協力して事例研究を提出し、討議し合意された事例内容を OECD 試験と評価シリーズとして公開することになると考えられる。類似内容の評価事例がある程度集積できた場合、次のステップとして評価手法のガイダンスの作成を行う。新しいプログラムの最終目標は上述した3つのテーマについての OECD のガイダンス文書を作成することであり、それらのガイダンスは OECD 加盟国内の規制および産業界の自主規制においても役立つものと考えられる。

オランダは新しい評価手法のガイダンスを作成するという目的を支持し、IATA のプロジェクトに対して、皮膚感作性の事例研究を提出することが出来るかもしれないと報告した。また、今までのような初期評価を対面会議で行うプログラムから書面会議が主流になるプログラムになることがプログラムの衰退を表すものになりかねないと言及し、産業界や ECHA (European Chemicals Agency、欧州化学物質庁) が新しいプログラムに積極的に取り組む必要があると強

調した。更に、革新的な評価手法をいきなり提示するのではなく親しみのある内容を手始めに、評価手法を検討していく方がよいと発言した。この点についてはカナダも、十分に試行された伝統的な評価手法からハイスループットスクリーニングや *in silico* 技術による評価手法への変更が、製薬企業にとってある種の障壁になっている点を引き合いに、革新的な評価手法の導入には注意が必要であると発言した。オランダは新しいプログラムがカテゴリー評価について「Learning by Doing」の精神で討議し合意する重要なフォーラムであることを理解していると付け加えた。OECD 事務局は、これらの意見に合意するとともに、日本からカテゴリー評価が可能な物質のリストが提出される予定であると報告した。今までの初期評価会議（SIAM および CoCAM）では、カテゴリー評価の初期評価文書を作成する前に、何故、どの様に、何の化学物質をグループ化するかなどを十分に話し合う機会がなかったが、カテゴリー化する物質のリストを予め公開し意見を募りたいと日本は発言した。スイスは、事例研究や新しいプログラムそのものが人健康影響に特化した内容のように思われると述べた。オランダはこの点について、今回の会議で審議された Hexamethyldisiloxane (CAS: 107-46-0) のフガシティー比について討議した内容などは、環境影響として評価手法の開発やガイダンスが必要な一例であると述べた。更に CoCAM が行ってきた初期評価のような実態を伴う評価作業は大切であり、実態の伴わないプログラムは実社会にそぐわない机上の空論になりかねないという重要な点に言及した。

4) クリアスペースにおける審議状況

会議で合意が得られた初期評価文書に新しい情報を追加する場合や、問題の少ない会議で審議する必要性のない初期評価文書などは、対面会議ではなく書面会議として、クリアスペース上で審議されている。最近の書面会議での審議状況を下記する。

- ① 米国/ICCA が担当した Glycerol Monothioglycolate (CAS 30618-84-9) は、2014 年 1 月に書面審議としてクリアスペース上に提出された。オランダ、デンマーク、OECD 事務局、ドイツ、スイスがレビューを行い、コメントに対する解答が 2014 年 3 月に提出された。しかし、全体的な初期評価文書の完成度が低く、オランダとスイスが合意しなかったため、引き続きクリアスペース上で審議が行われることになった。スポンサーは、類似構造の物質の情報を入れて評価書の完成度を高めるか否かという問題について検討中である。

5) 皮膚感作性評価手法

第3回 CoCAM (2012 年 10 月) で日本が提出し合意された 4-isopropylaniline (CAS: 99-88-7) については、皮膚感作性について類似物質の情報などを証拠の重みとして評価する手法をデンマークおよびオランダが OECD 事務局と共に提示し、前回の CoCAM で合意された (松本他、2014b, c)。OECD 事務局は、合意された文書が「OECD 試験と評価シリーズ 199」として出版されたことを報告した。

6) RIVM による REACH 講習会

オランダは、RIVM (オランダ国立公衆衛生環境研究所: Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu) が REACH のための講習会として、IUCLID の操作方法や評価手法についての講習を行うことを報告した。

おわりに

化学物質の初期リスク評価を行う会議として最後となった第6回 OECD 化学物質共同評価会議では、計 136 物質 (初期評価: 132 物質; 選択的初期評価: 4 物質) について審議され、titanium dioxide (CAS: 13463-67-6) を除く全ての物質に合意が得られた。カテゴリー評価としては、過去最大数の物質 (78 物質) を含む物質カテゴリー: Aliphatic acids が審議され合意された。日本は、政府作成の物質カテゴリー: Methyl- and Ethylcyclohexane (CAS: 108-87-2, 1678-91-7)

および BIAC 原案作成の trimethylsilanol (CAS: 1066-40-6) の初期評価文書、また 1,2-dichloro-4-(chloromethyl)benzene (CAS: 102-47-6)、1-naphthol-4-sulfonic acid sodium salt (CAS: 6099-57-6)、Disperse Red 206 (CAS: 26630-87-5) の計 3 物質の選択的初期評価文書を提出し合意された。

本プログラムは新しい 3 つのテーマを掲げ、2015 年中に再スタートすることになった。新しいプログラムとしての具体的な計画は未定な部分も多いが、日本は引き続き本プログラムに貢献する意思があり準備を進めている。他の OECD 加盟国の動向を含め、今後のプログラムの展開に注視していきたい。

参照資料

1. OECD (2014) 6th Cooperative Chemicals Assessment Meeting (CoCAM6) Draft Summary Record 30th September -3rd October 2014, ENV/JM/HA/COCAM/M(2014)1
2. OECD (2015) OECD Existing Chemicals Database.
<http://webnet.oecd.org/hpv/ui/Default.aspx>
3. 松本真理子, 高橋美加, 平田睦子, 小野敦, 広瀬明彦 (2012) OECD 高生産量化学物質点検プログラムから OECD 化学物質共同評価プログラムへ. 化学生物総合管理 8(2), 173-233
4. 松本真理子, 宮地繁樹, 菅谷芳雄, 長谷川隆一, 広瀬明彦 (2013) OECD 化学物質共同評価プログラム：第 2 回化学物質共同評価会議概要、化学生物総合管理 9(1), 100-111
5. 松本真理子, 宮地繁樹, 菅谷芳雄, 長谷川隆一, 小野敦, 広瀬明彦 (2014a) OECD 化学物質共同評価プログラム：第 3 回化学物質共同評価会議概要、化学生物総合管理 9(2), 222-231
6. 松本真理子, 大久保貴之, 宮地繁樹, 菅谷芳雄, 広瀬明彦 (2014b) OECD 化学物質共同評価プログラム：第 4 回化学物質共同評価会議概要、化学生物総合管理 9(2), 232-240
7. 松本真理子, 宮地繁樹, 菅谷芳雄, 広瀬明彦 (2014c) OECD 化学物質共同評価プログラム：第 5 回化学物質共同評価会議概要、化学生物総合管理 10(1), 37-45

付表 第6回 CoCAM で審議された化学物質

CAS 番号	物質名	スポンサー	区分
102-82-9	Tributylamine (TBA)	BIAC	SIDS
2374-14-3	Fluorosilicone trimer	BIAC	SIDS
614-45-9	t-Butyl peroxybenzoate	NL/ICCA	SIDS
142-62-1、111-14-8、124-07-2、112-05-0、 334-48-5、143-07-7、544-63-8、57-10-3、 506-12-7、57-11-4、30399-84-9、 106-14-9、544-64-9、2091-29-4、 112-80-1、112-86-7、60-33-3、 121250-47-3、463-40-1、68603-84-9、 68937-74-6、67762-36-1、68937-75-7、 90990-08-2、68002-90-4、90990-10-6、 67701-01-3、67701-02-4、68424-37-3、 67701-03-5、68937-76-8、90990-11-7、 68648-24-8、68937-85-9、68938-15-8、 61788-47-4、67701-05-7、68918-39-8、 90990-15-1、68334-03-2、61790-38-3、 67701-06-8、61790-37-2、68308-53-2、 68002-87-9、68440-15-3、67701-07-9、 67701-08-0、61789-45-5、68937-72-4、 123-99-9、111-20-6、68937-70-2、 67762-44-1、1984-06-1、1002-62-6、 629-25-4、10124-65-9、91032-12-1、 822-12-8、408-35-5、68424-38-4、 822-16-2、143-18-0、61789-30-8、 61789-31-9、67701-09-1、67701-10-4、 68082-64-4、67701-11-5、8052-48-0、 61790-79-2、68002-80-2、64755-01-7、 542-42-7、557-04-0、2437-23-2、 1002-89-7	物質カテゴリ:Aliphatic Acids	IT/ICCA	SIDS
626-86-8	Ethyl hydrogen adipate	KO	SIDS
1704-62-7	2-(2-(Dimethylamino)ethoxy ethanol (DMEE)	BIAC	SIDS
2219-82-1	Methyl-6-tert-butylphenol	KO	SIDS
13061-29-2	Ammonium carbonate	KO	SIDS
1066-40-6	Trimethylsilanol	JP/BIAC	SIDS
10124-43-3、10026-24-1、10141-05-6、	物質カテゴリ: Soluble Cobalt	BIAC	SIDS

CAS 番号	物質名	スポンサー	区分
10026-22-9、7646-79-9、7791-13-1、71-48-7、6147-53-1	Salts		
1088-87-2、1678-91-7	物質カテゴリー：Methyl- and Ethylcyclohexane	JP	SIDS
7440-50-8、7758-99-8、1317-38-0、1317-39-1、1332-65-6	物質カテゴリー：Copper and Copper Compounds	IT/BIAC	SIDS
25496-72-4、68309-32-0、61790-12-3、31566-31-1、61789-09-1、11099-07-3、67701-27-3、1323-39-3、65381-09-1、538-23-8、7360-38-5、85409-09-2、73398-61-5、8023-79-8、67701-28-4、68334-28-1、67701-26-2、67701-30-8、8030-12-4、8001-78-3、122-32-7、67701-33-1、68606-18-8、85251-77-0、97722-02-6、91744-20-6、68991-68-4、91052-53-8	物質カテゴリー：Glycerides	BIAC/ICCA	SIDS
107-71-1、927-07-1、29240-17-3、3006-82-4、26748-41-4	物質カテゴリー：t-Butyl and t-Amyl Derived Alkyl Peroxyesters	NL/ICCA	SIDS
102-47-6	1,2-Dichloro-4-(chloromethyl)benzene	JP	TA
6099-57-6	1-Naphthol-4-sulfonic acid sodium salt	JP	TA
26630-87-5	Disperse Red 206	JP	TA
67-72-1	Hexachloroethane	CAN	TA
107-46-0	Hexamethyldisiloxane (HMDS)	BIAC*	SIDS

BIAC：経済産業諮問委員会、CAN：カナダ、IT：イタリア、JP：日本、KO：韓国、NL：オランダ、US：米国

ICCA：国際化学工業協会協議会による原案提出

SIDS：有害性の初期評価に必要なスクリーニング情報データセットを満たしている評価、TA：特定のエンドポイントのみによる評価

* US/ICCA が第1回 CoCAM に提出し合意された文書を BIAC が改定し再審議された。